

外来種トガリアメンボ（カメムシ亜目，アメンボ科）の 茨城県における初記録

高橋 玄^{*, **}・成田行弘^{***}・中川裕喜^{****}

(2015 年 9 月 17 日受理)

First Records of an Alien Insect, *Rhagadotarsus kraepelini* (Heteroptera, Gerridae) in Ibaraki Prefecture, Central Japan

Gen TAKAHASHI ^{*, **}, Yukihiro NARITA ^{***} and Yuki NAKAGAWA ^{****}

(Accepted September 17, 2015)

Key words: Heteroptera, Gerridae, *Rhagadotarsus kraepelini*, distribution expansion, Ibaraki Prefecture.

トガリアメンボ *Rhagadotarsus kraepelini* Breddin は東南アジア原産の種であり，日本への侵入は 2001 年に兵庫県の淡路島で初めて確認された (Hayashi and Miyamoto, 2002). その後，本種は関西地方を中心に近畿地方や中国地方へ急速に分布を広げ (中尾, 2009), 2005 年には，愛媛県東部の池で有翅型と無翅型の雌が (大西, 2006), 2013 年には千葉県松戸市で有翅型の雌が確認された (室, 2014). 筆者らは，2014 年に新たな分布の北限となる茨城県つくば市でトガリアメンボを採集したので，ここに報告する。

1 ♀, 有翅型, 5 VII. 2014, つくば市天久保, 筑波大学構内, 高橋 玄. (図 1)

1 ♀, 有翅型, 22 VII. 2014, つくば市天久保, 筑波大学構内, 高橋 玄.

1 ♂, 有翅型, 22 VIII. 2014, つくば市天久保, 筑波大学構内, 高橋 玄.

トガリアメンボを採集したのは，筑波大学構内にある人工の小川 (図 2) である. 採集場所の水深は 10



図 1. 2014 年 7 月 5 日に採集されたトガリアメンボ有翅型の雌 (2014 年 7 月 24 日, 撮影: 高橋 玄).

Fig. 1. A long-winged female of *Rhagadotarsus kraepelini* captured on July 5, 2014 (photographed by G. Takahashi on July 24, 2014).

～ 40 cm 程度で流れは穏やかである. 川岸には抽水植物であるガマの一種が生えているが，ヒシなどの浮葉

*筑波大学大学院生命環境科学研究科 〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1 (Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, 1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan).

**元ミュージアムパーク茨城県自然博物館ジュニア学芸員

***茨城県自然博物館総合調査員 〒310-0801 茨城県水戸市桜川 1-10-23 (1-10-23 Sakuragawa, Mito, Ibaraki 310-0801, Japan).

****ミュージアムパーク茨城県自然博物館 〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 (Ibaraki Nature Museum, 700 Osaki, Bando, Ibaraki 306-0622, Japan).



図2. 筑波大学構内の小川 (2014年8月9日, 撮影: 高橋玄).

Fig. 2. An artificial stream on the campus of the University of Tsukuba (photographed by G. Takahashi on Aug. 9, 2014).

性植物は少なく開放水面は広い. この生息地において, 本種は, 開放水面域に姿を現すことは少なく, 水域に架かる橋の下や川岸から迫り出た植物の陰で発見された. また, トガリアメンボの生息状況を確認するため著者の一人, 高橋は7月から8月にかけて週に1~2回のペースで目視とたも網での採集を行ない, 2014年8月22日には, 筆者らで2時間かけて調査を行った. その結果, 採集できたのは3頭のみで, トガリアメンボの密度は低かった. トガリアメンボのほかには, ナミアメンボ *Aquarius paludum* (Fabricius) とヒメアメンボ *Gerris latiauratus* Miyamoto が確認でき, ナミアメンボが優占していた.

トガリアメンボを含むアメンボ類の多くの種では翅に二型が認められており, 有翅型と無翅型, または長翅型と短翅型が同種内に出現する (Harada and Taneda, 1989). 一般に有翅型の個体は飛翔することが可能で, 分散に適した形質をもっていると考えられてきた (Kaitala and Huldén, 1990). トガリアメンボにおいても, 有翅型が分布の拡大に寄与していると考えられており (大原・林, 2004), 今回の調査で確認できた3個体も有翅型であった. また, 幼虫や無翅型

の個体が発見されなかったことから, トガリアメンボはまだこの水域で繁殖しているのではなく, ほかの水域から飛来してきた可能性が高い. しかし, 少数ではあるが複数の個体を確認されたことから, つくば市の周辺に本種の定着している水域があると思われる. また, トガリアメンボはナミアメンボと比べ発生回数や発生期間も長く (貴志・藤崎, 2013), 今後の個体数の増加などを注視する必要がある.

採集したトガリアメンボ (1♂, 2♀) はミュージアムパーク茨城県自然博物館で保管している (標本番号 INM-1-042995 ~ 042997).

本稿の執筆にあたり, 埼玉大学の林 正美教授にはトガリアメンボの同定をお願いし, 分布の状況などについてのご助言をいただいた. 厚く感謝申し上げる.

引用文献

- Harada, T. and K. Taneda. 1989. Seasonal changes in alary dimorphism of a water strider, *Gerris paludum insularis* (Motschulsky). *J. Insect Physiol.*, **35**: 919-924.
- Hayashi, M. and S. Miyamoto. 2002. Discovery of *Rhagadotarsus kraepelini* (Heteroptera, Gerridae) from Japan. *Jap. J. Syst. Entomol.*, **8**: 79-80.
- Kaitala, A. and L. Huldén. 1990. Significance of spring migration and flexibility in flight-muscle histolysis in waterstriders (Heteroptera, Gerridae). *Ecol. Entomol.*, **15**: 409-418.
- 貴志 学・藤崎憲治. 2013. 日本における侵入種トガリアメンボ *Rhagadotarsus kraepelini* (Hemiptera: Gerridae) と在来種ナミアメンボ *Aquarius paludum paludum* (Hemiptera: Gerridae) の異なる季節消長と生活史. *昆虫 (ニューシリーズ)*, **16**(2): 97-103.
- 室 紀行. 2014. 東日本初記録のトガリアメンボ, *Rostria*, (57): 19-20.
- 中尾史郎. 2009. 分布を急速に広げる外来種, トガリアメンボ. *昆虫と自然*, **44**(1): 5-8.
- 大原賢二・林 正美. 2004. 四国におけるトガリアメンボの発見とその分布状況. *徳島県立博物館研究報告*, (14): 69-83.
- 大西 剛. 2006. 愛媛県でトガリアメンボを採集. *愛媛県総合科学博物館研究報告*, (11): 27.

(キーワード): カメムシ亜目, アメンボ科, トガリアメンボ, 分布拡大, 茨城県.